

47-1

「サステナブル・ビーチ」

かけがえのない地球のために

徳島文理小五年 近藤 花帆

「サステナブル」な海。それは、人間だけではなくて、ひとつの地球上に暮らしているすべての生き物たちが目指している海です。

この本は、わたしに深刻な環境問題について考えるきっかけをあたえてくれました。

もやもや気分が始まった七海の夏休み。七海のハワイでの体験は、七海だけでなく、わ

たしの心も大きくゆさぶりました。

ハワイの砂浜で七海が見つけたきれいなつぶつぶは、海に流れ込んだプラスチックが長い時間をかけて細かくなったものでした。

ハワイの海にまで、環境を破壊してしまうプラスチックの問題が広がっていることに、わたしはおどろきと危機感を覚えました。

七海は、ハワイでとても大切な出会いがありました。ごみでアート作品を造っているオーガストさんと壁に壮大な絵を描いているピ

カケさんです。二人とも、環境破壊に高い関心を持っていきます。わたしも、七海を通してとてもいい刺激を受けました。

衝撃だったのは、ごみの島の上に群がっている白くまの写真や大量のプラスチックのふくろを飲みこんで死んでしまったくじらのことでした。このことによつて、今、世界のどこかで起きている環境破壊は、他人事ではないということを実感しました。

ハワイから帰った七海は、早速、アクシヨンを起こしました。そんな七海の姿にわたしも、自分の経験などをもとに環境問題について考えてみました。

わたしの家の近くには、吉野川の河口干潟が広がっています。この干潟には、シオマネキやトビハザなどさまざまな種類の希小生物が生息しています。でも、最近、大量のごみが流れ着き環境が悪くなっています。

そこで、わたしは希少生物たちの貴重な生息地を守りたいと思い、清そう活動に参加し

ました。干潟には、流木や空き缶、レジぶくろなどたくさん漂着したごみがありました。作業をしながら、わたしは自然を守ることに大切さを痛感しました。そして、このすばらしい環境を守っていくためには、このような清そう活動をわたしたちの手で積み重ねていく必要があると思いました。

「川ベリクリーン作戦」を始めた七海。わたしの思いと通じ合ったような気がして、とてもうれしくなりました。

七つの海は、ひとつの海。この言葉が示すように世界はつながっていて、ひとつのものになっていきます。わたしたちは、人種や国籍にとらわれずに国境をこえて、物語を考える必要にせまられていると強く感じています。

自分で考えて行動し、持続可能なすばらしい海を取りもどすための努力を続けていくこと。それが今のわたしたちにできることであり、七海と心の中で交わした約束でもありません。かけがえのない地球を守るために。